

心こそ大切

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

(ユネスコ憲章前文より)



恒久平和を願って一。昨年の「平和の鐘事業」では、子ども代表とともに原爆の子の像の鐘を打ち、平和を祈った。

このたび、また会長の任に



広島ユネスコ協会会長 北川 建次

混乱と変革の時だからこそ
ヒロシマの精神を世界に

会長就任に当って

当らせていただくことになりました。浅学非才の私に務まるかとも思いましたが、何とか会員の皆様の御助力により職務を遂行できればと思っております。これまでと同様、皆様の御助力と御鞭撻をお願いいたします。

いたします。

二十一世紀に入って、早や九年目、十年近くとなりました。米・ソ冷戦の時代からパックスアメリカーナ（アメリカ全盛）の時代となるやに思われましたが、時代は思いもよらぬ新展開となり、新たな混乱と動乱の時代に突入しつつあります。

歴史学者・ブルックハルトの循環史観ではありませんが、時代は昭和初期の大恐慌、あるいは敗戦直後の混乱の時代と、時を同じくしているやの観があります。

しかし、こうした大きな時代の変革に当る政治や官僚の類廃、無気力ぶりには、目を覆いたくなるような気がいたします。

核廃絶へ重要な使命

このような時代こそ、ユネスコの精神に立ち戻って、平和の構築、継続可能な、人類が破滅しないような世界の実現が図られねばなりません。

こうした人類共通の願望とは裏腹に、現実の世界の姿は、一層の悪化の過程を辿っているやにも見えますが、アメリカのオバマ大統領の努力にも見られるように、一筋の希望

の光もないでもありません。

広島はヒロシマ、Hiroshimaとして、核のない世界を目指し、ヒロシマからワールドピースマへと、ヒロシマの精神を世界へうち広げていく、重要な使命と責任を持っています。

そのような意味で、広島ユネスコ協会は、日本は元より広く世界各地から期待されている所であります。

今年も8・6から8・15の平和の鐘と、ユネスコの重要な活動が始まります。

会員の皆様は元より、広く知り合いの人や市民、日本各地の人、世界の人々を誘って、こうした活動の広まらんことを希求いたしております。

広島ユネスコ協会

広島ユネスコ協会は、一九四九年の広島ユネスコ協力を前身として、七三年に発足。協会内に組織、青少年育成、教育、文化、国際平和・世界遺産、広報の七部会を設け、世界平和と交流推進に取り組んでいます。



重点活動などを承認し、新出発をした総会

2009年度 総会を開催

青少年育成や世界遺産の理解活動、「平和の文化」を推進へ

～新役員も選出しスタート～

二〇〇九年度広島ユネスコ協会総会が、五月二十三日、広島市まちづくり交流プラザで開かれました。

前年度の事業・決算、監査報告があり承認されたあと、新年度の方針をはじめ事業計画、予算、規約改正、役員改選を審議し、決定しました。

また、一期二年の任期満了に伴う役員改選を行い、新体制が発足しました。

総会議事の要点は次のとおりです。

前年度事業では、「平和」関連でヒロシマ・スタディ受け入れや、建立五十周年を迎えた原爆の子の像前広場に移して開かれた

国内一斉行動「平和の鐘を鳴らそう」集会（高校生の代表に加えて、幟町中学校、A N T 広島代表も参加）、大邱協会訪問、団来広時に行われた第三次姉妹協定調印、さらには青少年センタ

ーとの共催による語学講座の拡充、ユネスコ活動奨励賞、ユネスコサロン、新春フェスタのオペラ出前講座、ホームページへの広報紙の掲載など、各専門部会の活動が着実に成果をあげていると評価されました。

重点方針

- 新年度事業計画では、重点方針として
- (1) 青少年活動の振興と育成対策の確立。
- (2) 世界遺産（地域文化財）・景観の保護、啓発、理解を深

める活動に努める。

- (3) 「平和の文化」を築く活動を推進する。
- (4) 組織の活性化に努める。――などが承認されました。

専門部会重点計画

専門部会の重点計画は、組織部会の「広島ユネスコ協会紹介パンフレット作成、青少年育成部・教育部会の「高校生をつどい」のあり方（内容検討）、文化部会の「現地講座」、国際部会の「韓国大邱広域市友好親善訪問に青年代表の派遣」、平和・世界遺産

部会の「国内の地域ユネスコ協会の受け入れ」「原爆ドームの景観保護」、広報部会の機関紙への「会員の投稿による内容充実」を図るなど。

また、規約改正では役員の職務として「常任理事」と「理事」の名称が使われているが役割（職務）にあまり相違がないことから名称を統一して「理事」とすることにしました。

なお、本年度は役員の改選の年にあたり新役員が選出されました（別掲）。

2年間よろしくお願ひします

新役員一覧

- ▽名誉会長／秋葉忠利
- ▽名誉顧問／平岡 敬
- ▽顧問／永井滋郎、伊東亮三、深崎敏之、☆光田 鈞
- ▽会長／北川建次
- ▽副会長／高橋昭博、木村進匡、中山修一、☆古田碩永、☆松原博子
- ☆組織部会
- 末重文男、平岡豊恵、井上哲一、高橋博暢、山崎芳彦、大本文子
- ☆青少年育成部会
- 國田 繁、今村信昭、清水昌法、梶井朝子、森田清美
- ☆教育部会
- 崎岡光明、太鼓矢 晋、足立柳子、藤原隆範、☆谷原久資
- ☆文化部会
- 井尾義信、新川貞之、佐々木 肇、谷 秀明、梶井朝子
- ☆国際部会
- 藤井正一、永田龍男、中道紘二、中谷美保子、平井 勇
- ☆平和・世界遺産部会
- ☆柴田幸子、宇野 豪、由田千鶴子、亀井 章
- ☆広報部会
- ☆岡平裕次、森木 学、☆藤川和康
- ☆事務局
- ☆事務局長／藤井孝行、事務局次長／國田 繁
- 兼、亀井 章
- 兼、平井 勇
- 兼、新畑志津夫、山本 隆信
- ☆監事
- 木原 亮、黒瀬真一郎
- （部会長、☆新任、兼は兼務）

現地講座

「ホロコースト記念館
・ 鞆の浦」探訪記

世 界遺産候補地として話題となる一方、埋め立て架橋計画で揺れる鞆の浦をこの目で確かめたいと、ユネスコ現地講座は六月二十日、参加者二十四名で出発した。

山陽自動車道を福山へ。この日は鞆を訪ねる前に福山市御幸町の「ホロコースト記念館」に立ち寄ることにした。福山東ICを降りてしばらく走ると、目指す記念館に到着。記念館のスタッフが玄関前で迎えてくれた。

念館は、ナチス・ドイツによるユダヤ人大量虐殺の悲劇を今に伝えるため十四年前に開館。二年前に新

案内で管内を見学。「ホロコースト」(ナチスによる大虐殺)についての写真パネルや遺品

館に建て替えられて展示内容を充実させたという。黒色は悲しみを、白色とガラスは希望を表すという建物はモダンで明るく、開放感にあふれていた。

の展示、アンネ・フランクの隠れ家とアンネの日記の再現、自らの命を賭してユダヤ人を助けた日本の外交官、杉原千畝氏らの紹介資料などが整然と展示されていた。

くから潮待ちの港として栄えた鞆の浦の港が眼前に穏やかに広がる。常夜灯など江戸時代の港湾施設が今に残る港から、一歩町に入ると古い商家や蔵が建ち並ぶ。

まず、大塚信館長がアンネ・フランクの父、オットー・フランク氏との偶然の出会いやユダヤ人差別の歴史を通して平和へのメッセージを読み取って欲しいと熱く語り続けたあと、続いてスタッフの案内で管内を見学。「ホロコースト」(ナチスによる大虐殺)についての写真パネルや遺品

ユダヤ人虐待の歴史的事実を重く学び、認識を新たにして記念館をあとにした。

しかし、その町の中心を走る道は狭く車のすれ違いもままならず、バイパス道路を造るために港を埋め立て橋を架ける計画が持ち上がり、歴史的景観と文化財の保存を訴える人々との間で論争が続いている。

取って欲しいと熱く語り続けたあと、続いてスタッフの案内で管内を見学。「ホロコースト」(ナチスによる大虐殺)についての写真パネルや遺品

食後に観光ガイドの釜谷勲さんの鞆の浦についてのオリエンテーションに耳を傾ける。で生まれ育ったという

常夜灯のそばには埋め立て、架橋反対の署名簿があった。なぜ架橋なのか、なぜ埋め立てなのか。参加者は怒りを込めて反対署名のペンを持った。

福山市で虐殺や歴史遺産を学ぶ



アンネの日記の複製にホロコーストへの思いを寄せて熱心に見入る参加者④と、鞆の浦の風景をつくる古い雁木の説明に聞き入るメンバー

釜谷さんの懇切丁寧でユニークな話に誘われて先ず対潮楼へあがる。先人たちが愛でた広間からの弁天島の眺めにしばし刻を忘れる。対潮楼から港へ。常夜灯を対岸に見る雁木のそばに立つと、古

釜谷さんの説明が淡々と続くなか、最後に保命酒の蔵元へ立ち寄り、試飲をしながら土産ものを買って求めた鞆の浦散策は終わった。

定刻に広島駅新幹線口に戻る。無事に現地講座を終えることが出来てほっとしている。今回は亀井章さんの周到なプランニング、準備に負うところが多く、加えて山本隆

になった。感謝。

また、この日快くバスを提

供して下さった上に、安全運転をしてくださった中内祐秀さんには心よりお礼を申し上げたい。

文化部長 井尾義信

信さん作成の講座資料が参考

文化部長 井尾義信

「田母神講演会開催中止」の声明に参加

平和・世界遺産部会理事 亀井章

この八月六日に「ヒロシマの平和を疑う」と題する田母神俊雄講演会を日本会議広島が計画しています。同氏は昨年、かつて日本が先の戦争で侵略した歴史を否定する論文「日本は侵略国家であったのか」を発表して航空幕僚長を更迭された人物で、秋葉広島

平和都市として容認できない

市長は「被爆者や遺族の悲しみを増す結果となる。日程変更を」求める要請書を主催者に送りました。
田母神氏は取材に対して「日本が核武装すべきことは講演で触れる」と述べていま

す。
現在、講演会の中止を求めて平和団体などが反対の動きを示す中で核兵器廃絶をめざすヒロシマ会議が共同声明を行う参加団体を募っており、当協会は七月十七日の理事会で参加を決めました。
声明の表題は「日本核武装論と侵略戦争正当化を主張する8・6田母神講演会主催者日本会議広島に抗議し中止を要求する声明」。現在、共同

声明参加団体は約五十団体で、今後さらに増える模様です。
講演会の入場券を販売していたフタバ図書、GIGA、MEGが販売を中止しました。
核兵器廃絶の願いを世界に発信する原爆記念日に広島で核武装を説く講演はヒロシマへの挑戦に外ならず、世界大戦の反省から生まれたユネスコ運動の一翼を担い、平和都市広島で活動する当協会は、田母神講演会は容認することができません。

今年も平和の鐘を鳴らそう！

二〇〇〇年に始まった平和の鐘国内一斉行動には、現在七十二のユネスコ協会が、参加しております。今年は、広島在住の留学生、その他の

方々にも呼びかけて、多くの皆様にご参加していただきたく、ご案内申し上げます。
〔日時〕平成21年8月15日 11時30分
〔場所〕広島平和記念公園の

「平和の鐘」前広場
〔集会の主な内容〕
◎主催者あいさつ
◎メッセージ発表
◎その他
◎正午 黙祷 鐘をつく
〔平和・世界遺産部会長 柴田幸子〕

大邱ユネスコ交流について

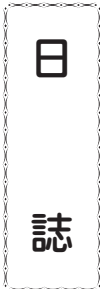
昨年、第三次姉妹協会協定調印をして、両協会の交流が深まる事が期待されています。現在、大邱ユネスコ協会の心温かいお誘いを受けて、孫基洙会長をはじめ理事、会員の方々の交流、大邱の美し

い自然、文化遺産の訪問、希望される分野別の面談、ホームステイ、韓国の歴史で有名な安東歴史探訪などを含めた旅程案を作成しています。
旅程は九月から十一月月中旬の間で、四泊五日を基準としています。新しい企画として、

今回が未来のリーダーになっていただく青年二名を公募して訪問団を構成致します。激動韓国の実情を知り、秋の景観を楽しみ、美味しい料理を味わされ、心温まる友情を深めてください。ご多用中ですが、皆様のご参加をお待ちしております。
〔国際部会長 藤井正一〕

【9月のユネスコサロン】

- 27日/役員候補者推薦委員会 (市民交流プラザ)
- 〔5月〕
- 3/5日/「大邱の日」広場参加 (平和大通り)
- 9日/理事会 (国際会議場)
- 21日/会計監査 (国際会議場)
- 広島女学院大学)
- 23日/第百三十八回ユネスコ・サロン「被爆二世アーティストの挑戦」現代美術・映像作家 田中 勝 (市民交流プラザ)
- 23日/二〇〇九年度総会 (市民交流プラザ)
- 〔6月〕
- 10日/新旧部会長・事務局会議 (市民交流プラザ)
- 20日/現地講座 (ホロコースト記念館・輛の浦)
- 29日/奨励賞候補推薦委員選任会議 (芸術保険センター)
- 〔7月〕
- 2日/組織部会他リーフレット作成会議 (芸術保険センター)
- 3日/広報企画会議 (市民交流プラザ)
- 7日/高校生のつどい企画相談 (広大附属高校)
- 8日/平和・世界遺産部会 (市民交流プラザ)
- 17日/理事会 (国際会議場)
- 31日/機関紙第72号発行 (国際会議場)



8日・24日/大邱の日実行委員会 (国際会議場)